

岩国市博物館基本計画（案）

令和4年3月

岩国市

CONTENTS 目次

第1章 計画の策定

6

- 1 計画策定の背景
- 2 岩国市博物館等施設再整備計画の振り返りと本計画の目的
- 3 新博物館の目指す姿

第2章 全体計画

12

- 1 機能別の拡充方針
- 2 市内博物館・資料館施設の今後の活用と連携

CONTENTS 目次

第3章 施設計画

16

- 1 施設整備の基本的な考え方
- 2 求められる諸室機能と構成
- 3 立地環境と施設の想定規模
- 4 施設計画における配慮事項
- 5 施設構成案

第4章 展示計画

29

- 1 展示の基本的な考え方とコンセプト
- 2 展示室全景イメージ
- 3 展示構成及びコーナーイメージ
- 4 展示解説の考え方

第5章 教育普及活動計画

39

- 1 活動の基本的な考え方
- 2 教育普及活動のバリエーション
- 3 市内各地域との連携・発信活動
- 4 周辺施設との連携

CONTENTS 目次

第6章

管理運営計画

44

- 1 管理運営の基本的な考え方
- 2 開館形態
- 3 利用者に向けたサービス展開と広報
- 4 運営方式と運営体制

第7章

開館に向けて

51

- 事業スケジュール
- 整備事業費概算

◎凡例

- 新築される建築物を指す場合は「新館」、構成要素として岩国徴古館と新館を含んだ（仮称）岩国市立博物館を指す場合は「新博物館」で統一して表記します。
- 新博物館の周辺立地を指す場合は「横山地区」、錦帯橋周辺地域を指す場合は「城下町地区」で統一して表記します。
- 「岩国市」もしくは「岩国」のみ表記の場合には、現行の岩国市域全域を対象とした表記とします。ただし、立地区分として述べる場合には、「岩国市域」を現行の岩国市域、「岩国地域」を市町村合併前の旧岩国市域として区別して表記します。

第1章

計画の策定

1 計画策定の背景

（１）岩国市の構成

岩国市は、山口県の東端に位置し、東は瀬戸内海と広島県大竹市、廿日市市、山口県玖珂郡和木町に面し、北は島根県鹿足郡吉賀町、南は山口県柳井市、光市、熊毛郡田布施町、西は周南市に接しています。名勝・錦帯橋や国の天然記念物・岩国のシロヘビで知られ、豊かな歴史・自然を持つとともに、広島市や周南市等と同様に、瀬戸内工業地域の一角を担う工業都市でもあります。

（２）岩国市の歴史背景と、歴史的・文化的資料の継承活用

現在の岩国市は、2006（平成18）年に旧岩国市、玖珂郡由宇町、周東町、玖珂町、錦町、美川町、美和町、本郷村の8市町村が新設合併し誕生しました。現在の市域は江戸時代に吉川家の統治のもと、城下町や宿場町の形成により発展した岩国領と、毛利家により統治されていた萩本藩領があり、歴史的・文化的にも多様な背景を持つ地域で成立しています。

地域の歴史を物語る資料の多くは、博物館法に定義された登録博物館である岩国徴古館のほか、岩国学校教育資料館、由宇・美和・本郷の歴史民俗資料館等、市町村合併前から続く市内各地で収蔵・公開されることで、受け継がれてきました。

岩国徴古館は、県内でも有数の歴史資料群を所有している一方、建設から70年以上が経過した建物を使用し、施設や設備の老朽化が著しく、収蔵庫も飽和状態となっている等、将来的な課題が山積しています。さらに、耐震性についても耐震診断の結果、目標値を下回っており、今後耐震補強が必要な状況です。

また、岩国学校教育資料館、由宇・美和・本郷の歴史民俗資料館については、利用者の減少、施設の老朽化や展示機能の低下等についての課題を抱えており、加えて、玖珂、周東、錦、美川といった資料館のなかった地域においても、資料が図書館等に保管されているほか、歴史的公文書のような比較的新しい時代の資料群も存在しています。

こうした現在の岩国市が抱える、市内各地に分散する歴史的・文化的資料の適切な保存管理ならびに、地域の歴史や伝統文化を継承維持していく上での多くの課題を受けて、2020（令和2）年度には市内博物館施設等の今後のあり方を見直す「岩国市博物館等施設再整備計画」を策定しました。

（３）岩国市博物館等施設再整備計画の策定

現在の岩国市が抱える、市内各地に分散する歴史的・文化的資料の適切な保存管理ならびに、地域の歴史や伝統文化を継承維持していく上での多くの課題を受けて、2020（令和2）年度には市内博物館施設等の今後のあり方を見直す「岩国市博物館等施設再整備計画」を策定しました。

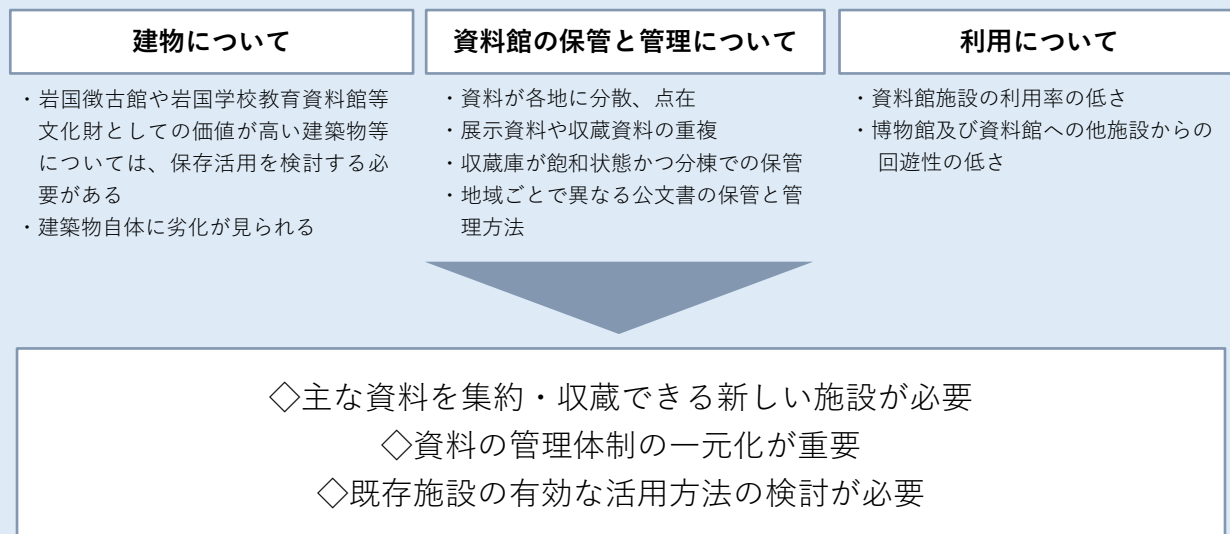
2 岩国市博物館等施設再整備計画の振り返りと本計画の目的

(1) 岩国市博物館等施設再整備計画の大方針

昨年度策定の「岩国市博物館等施設再整備計画」では、各施設の課題を踏まえ、具体的な再整備を進めるために以下の大方針を整理しました。

課題は大きく3軸に分けられ、全体としての課題を解決するためには、拠点となる施設の新設や資料の管理体制の一元化等を検討していく必要があります。また、現状利用率の低い既存の施設は、収蔵庫として活用する等の活用方法の検討が望まれます。

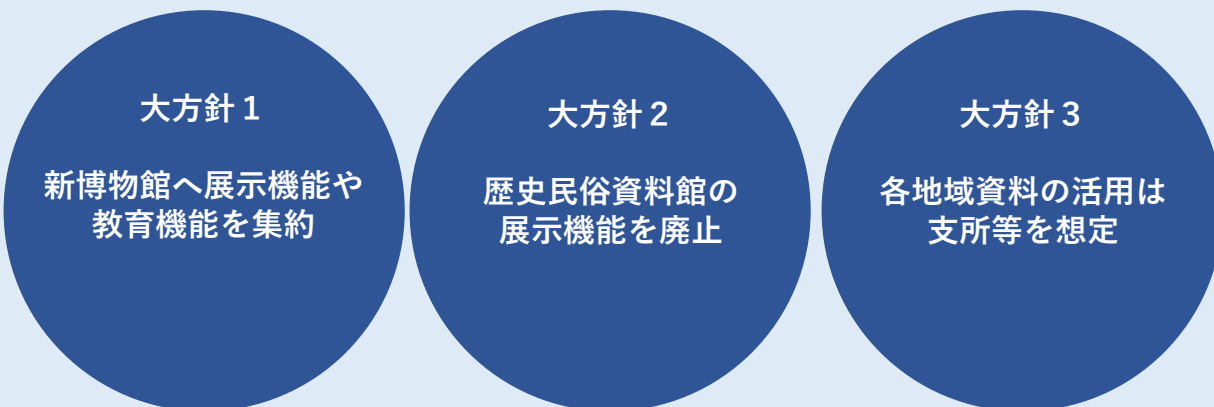
■大方針の考え方 (抜粋：『岩国市博物館等施設再整備計画』 p.52)



これらの課題の整理から、方針の1つ目として進めていくことは、岩国市の各地域で保管されている資料を新博物館へ集約し資料の管理体制の一元化を図ることである。

2つ目は、新博物館に機能を集約していくことを受けて、由宇・美和・本郷の歴史民俗資料館や岩国学校教育資料館は、新博物館への展示機能を集約していくこととなる。なお集約後には収蔵庫として活用する考え方や、新博物館の展示機能の補完として一部の資料館の機能は維持する考え方もある。さらに、支所等で一部展示機能を補完することも考えられる。また、その他の利活用についても検討を行う必要がある。

そして、3つ目は、各地域で保管されている資料も歴史民俗資料館と同様に集約していく考えとなるが、現状、調査を行った施設だけでも、資料の占有面積は、2,900㎡～4,350㎡にのぼることから、新博物館にすべての資料を集約することは厳しいと考え、一部の資料以外は収蔵庫で保管しながら、支所等での有効活用を検討していく必要がある。



2 岩国市博物館等施設再整備計画の振り返りと本計画の目的

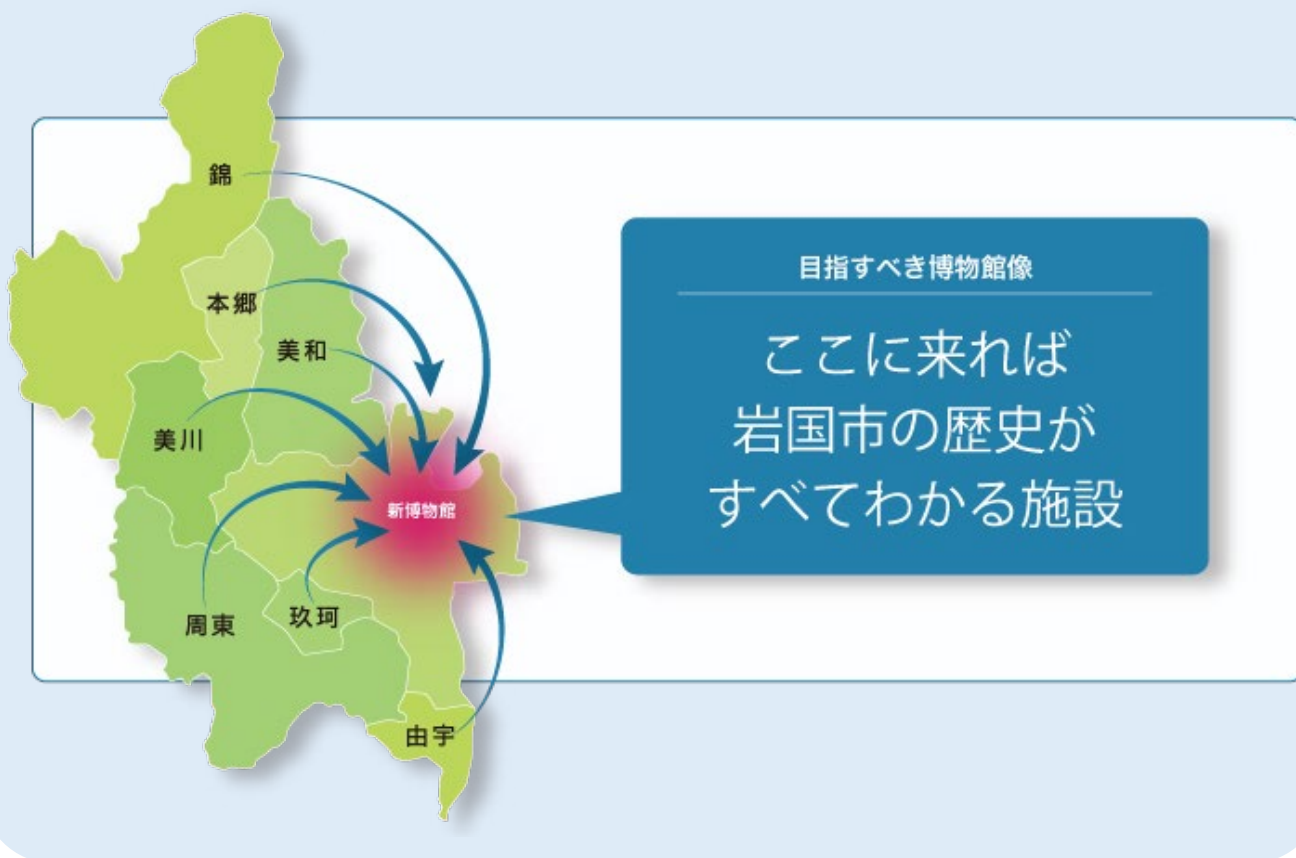
(2) (仮称) 岩国市立博物館の設置と本計画の目的

(仮称) 岩国市立博物館（以下、「新博物館」）の候補地としては、岩国市の中で歴史の重層性や歴史の風情を感じてもらうこと、また、利用者の使いやすさや現状の文化的な施設との立地関係、資料の管理体制の一元化や施設同士の連携を考えていくと、現在、資料管理や博物館活動の軸である岩国徴古館の周辺が計画候補地として挙げられます。

新博物館は各地域が市として一体となったことを歴史文化の視点から伝えていく施設として位置づけられます。そのため、“ここに来れば岩国市の歴史がすべてわかる施設”を目指していく必要があります。さらに、岩国徴古館と一体で活用し、大人から子供までが体験展示等を通して歴史を楽しく学ぶことができる施設として、検討していくことも求められます。

岩国市博物館基本計画（以下、「本計画」）は、新博物館の整備に向けて、現状と課題、基本理念、基本方針、求められる機能等、設計の前提となる基本的な考え方を検討・整理することを目的とします。

■ 目指すべき博物館像 （抜粋：『岩国市博物館等施設再整備計画』 p.55）



3 新博物館の目指す姿

(1) 新博物館の基本理念

「ここに来れば岩国市の歴史がすべてわかる」

(2) 新博物館の使命

新博物館は、かけがえのない地域の財産である資料を収集・保存するとともに、調査研究によって読み解き、市民及び利用者の学びや交流に活用することによって、歴史や文化を継承し、その魅力を発信していく施設です。

新博物館では、以下の使命を掲げ、博物館機能の充実と活動の活性化を図ることで、「ここに来れば岩国市の歴史がすべてわかる」地域の生涯学習施設としての役割を果たしていきます。

継承：岩国ゆかりの地域資料を収集保存・調査研究・展示公開していくことで、市民の知的好奇心に応えるとともに、岩国の歴史や文化を次世代に継承していきます。

探究：資料の持つ価値や地域の特性を明らかにすべく、他の博物館や関連機関とも連携しながら、岩国の歴史や文化に関する調査研究活動を進めていきます。

発信：展示や教育普及（学習支援）活動を通して、地域の特色あふれる財産である歴史・文化・生活・産業の価値を、わかりやすく岩国の内外に発信していきます。

育成：幅広い世代の方が互いに学び交流する機会の充実を図ることで、未来の岩国を創る人と文化を育てていきます。

(3) 新博物館が目指す役割と望まれる効果

新博物館は、博物館活動を通して、市民及び利用者一人一人が岩国が持つ価値や魅力を自ら発見・創造していく学び・発信・交流の場となることで、郷土への誇りと活気に満ちた地域・社会づくりに貢献していきます。

【地域における役割】

【望まれる効果】

歴史文化を受け継ぐ地域の学びの場

郷土岩国への愛着づくり

岩国の歴史的・文化的特性やその魅力を市民が共有することで、郷土への愛着を育むとともに、次世代の地域文化の担い手を育成します。

岩国の魅力を広める発信の場

岩国の知名度・ブランド力向上

岩国の歴史や文化財の価値等をわかりやすく伝えることで、観光促進や関係人口の増大に向けて岩国の魅力を地域内外に広くアピールします。

岩国の新しい魅力をつくる交流の場

世代間・地域間交流の誘発

岩国市内外から多様な人々が集い活動する場となることで、新たな交流や関係づくりに寄与します。

3 新博物館の目指す姿

(4) 新博物館の機能

新博物館の目指す姿をもとに、新博物館が果たすべき機能として以下を定め、博物館としての機能充実及び活動の活性化を図っていきます。

資料の収集保存

- ア. 岩国ゆかりの地域資料を積極的に収集・整理・保存し、市民共有の財産として次世代に継承します。
- イ. 所蔵する旧岩国藩の藩政史料をはじめとした歴史資料を適切に管理し、利用者の要望に応じて、閲覧できる環境を整えます。

調査研究

- ア. 調査研究を継続的に行い、新たな事実や価値を発見し、展示をはじめとした博物館活動に反映します。
- イ. 岩国市内及び山口県内、近隣地域の研究機関や博物館施設等と連携し、岩国市の歴史文化の継承に向けた調査活動を充実させます。

展示公開

- ア. 岩国市域の歴史を網羅的に紹介することを目的とした常設展示室では、「岩国のうつりかわり」を導入展示とし、通史展示で各時代の岩国の歴史トピックを追いながら、岩国が持つ地理的特性や歴史的・文化的な特徴をとらえる展示構成とします。
- イ. 常設展示は実物資料だけでなく、映像・音声・模型・体験型展示等の手法を取り入れ、わかりやすいだけでなく誰もが親しめるわかりやすい展示を行います。
- ウ. 公開承認施設相当の企画展示室の設置を目指し、博物館所蔵の貴重資料や他館からの借用資料を公開する企画展示が行える環境を整えます。

教育普及

- ア. 講座や講演会、体験活動を開催し、市民が気軽に博物館を訪れ、学ぶことができる環境を整えます。
- イ. 学校教育を積極的に支援し、地域の子供たちが郷土の歴史や文化に触れる機会をつくれます。
- ウ. 市民が博物館の活動に積極的に参加する機会を設けることで、利用者と市民との交流の場づくりを行います。

情報発信・公開

- ア. 利用者自身の興味関心に合わせて、自発的に情報の探求ができる学習拠点として、情報発信や活動支援を行います。
- イ. 収集した地域資料や図書、調査研究成果等をデータベース化し、広く公開します。

施設の管理・運営

- ア. 多様な利用者に開かれた施設として、どなたにも利用しやすいユニバーサルデザインの環境整備と、安全と安心を第一とした運営を行います。

第2章

全体計画

1 機能別の拡充方針

新博物館の果たすべき機能を踏まえて、施設の基本的な活動のあり方を示します。

活動は、博物館活動の基礎となる「基本活動」と、多種多様な目的と興味をもって訪れる利用者に対して、わかりやすく、興味深く、岩国の歴史と文化を発信する「交流活動」に大別し、拡充を図ります。

基本活動

資料や情報の収集・保存、調査研究し、交流活動に反映させます。

- (1) **収集保存機能**
貴重な地域資料を後世に伝えます。
- (2) **調査研究機能**
岩国の歴史と文化の調査研究を行います。
- (3) **展示公開機能**
岩国の歴史と文化に触れる機会を創出します。

交流活動

利用者との交流を図ると共に、生涯学習の拠点にふさわしい活動を行います。

- (4) **教育普及機能**
岩国の歴史と文化を通して、利用者の学びと交流の場づくりを行います。
- (5) **情報発信機能**
岩国の歴史と文化を広く発信する役割を果たします。
- (6) **運営管理機能**
円滑な活動推進と共に、多様な人々を迎える施設としての機能維持を行います。

(1) 収集保存機能

- 岩国ゆかりの地域資料を所蔵資料として、一次資料(実物)を収集すると共に、入手が困難な場合は、二次資料(複製・模造・写真・映像等)としての収集も検討します。
- 収蔵庫内の温湿度について、変動の少ない環境を整えます。
- 館内の空気を清浄に保つ環境を整えます。
- 火災や地震、盗難等の災害・非常時に配慮した設備を整えます。

(2) 調査研究機能

- 調査研究を進めるにあたり、地域の有識者や他館の学芸員等との人的ネットワークづくりを目指します。
- 他館との共同研究や活動を視野に入れ、開かれた研究体制を目指します。
- 市民も参加しやすい研究発表の場の提供を目指します。
- 館報や研究紀要等研究成果物の刊行を行います。

(3) 展示公開機能

- 岩国の歴史と文化について知ると共に、地域の特性や風土についても触れることのできる展示を行います。
- 館内展示にとどまらず、教育普及活動も考慮して、岩国の歴史と文化を様々な角度から体感できる展示を目指します。
- 利用者が楽しみながら学ぶことができる体験型展示を積極的に行います。
- 常設展示とともに企画展示を行い、展示をより一層幅広く奥深いものとします。

(4) 教育普及機能

- 岩国の歴史と文化をテーマとしたシンポジウムや講演会等を開催し、市民の郷土への関心と理解を深めます。
- 講座や体験型ワークショップの開催等、多様な世代や関心層に向けたプログラムの提供を行います。
- 市内小中学校の見学や出前講座の他、事前学習用体験キットの貸し出し等学校教育への支援を積極的に行います。
- 地域のまつりやイベント等の開催に合わせた企画の協力・実施、周辺施設との連携展示企画等、岩国の歴史や文化の魅力を体感できる機会づくりを行います。
- 展示図録、展示解説シートやワークシートを作成します。
- 博物館内外のボランティアとの連携や、協力団体への支援を行います。

(5) 情報発信機能

- 常設展示及び企画展示に関連した図書資料等を閲覧できるスペースの設置や、市内各地域の名所・旧跡等へのガイド機能の充実を行います。
- 所蔵資料の公開やデジタルアーカイブ化による研究支援を推進します。
- 新博物館の所蔵資料や、岩国の歴史と文化に関連する有形・無形文化財等をデータベース化し、博物館データベースとしてアクセスできる検索コーナーの設置を検討します。
- 広報用ポスターやパンフレットの作成の他、各種メディアやSNSを用いて、積極的な広報活動を行い、市民に対して博物館活動の周知を行います。

(6) 運営管理機能

- ユニバーサルデザインを取り入れた施設として、関係法令や「山口県福祉のまちづくり条例及び施行規則」等各種条例・指針に基づく施設整備と管理維持を行います。
- 環境負荷やランニングコストにも配慮した施設設計を進めていきます。
- 利用者や市民の意見を定期的に聞き取る場を設け、その結果を博物館の活動に反映させるよう努めます。

p. 15

第 3 章

施設計画

1 施設整備の基本的な考え方

(1) 博物館の活動を支える施設整備

- ア. 新博物館の基本理念「ここに来れば岩国市の歴史がすべてわかる」の達成に向けて、必要な空間と設備を備えた施設を整備します。
- イ. 資料の保存継承を図る拠点として、堅固な構造や、資料保存の適切な環境維持等に必要な設備を持つ施設とします。
- ウ. 文化庁による公開承認施設の基準を満たす展示収蔵環境の整備を目指します。

(2) 吉香公園及び城下町地区との一体的な整備

- ア. 新館の建設予定地は岩国徴古館の隣接地であり、周辺には旧目加田家住宅・吉香茶室・吉香神社・岩国城ロープウェー・民間の博物館等市民の利用が多い施設があることから、施設間の動線の在り方等周辺地域一体の環境を考慮した整備に十分配慮します。
- イ. 建築や外構整備については、シンプルで長く愛されるデザインであると共に、国の登録有形文化財である岩国徴古館との調和を考慮するものとします。
- ウ. 周辺地域への案内サインや外観、園路整備を含めて、場所がわかりやすく、来訪者が訪れやすい博物館を目指します。

(3) 利用者の視点に立った施設整備

- ア. すべての利用者にとって安全で快適な空間となるよう、ユニバーサルデザインを取り入れた環境整備を行います。
- イ. トイレ、授乳室、休憩可能なスペースを適切に設ける等、利用者が心地よく過ごすことのできる空間づくりを行います。
- ウ. 社会科見学等団体利用者への対応に必要な空間や設備、駐車スペースを確保します。敷地内での確保が難しい場合には、周辺施設や駐車場等の活用も含めて検討を進めていきます。

(4) 維持管理にかかるコスト低減への配慮

- ア. 施設の整備にあたり、合理的・効率的な構造・仕様となるよう建築設計の段階で十分に検討を行います。
- イ. 計画的で適切な維持管理により、施設の長寿命化や修繕費を含むライフサイクルコストの軽減を目指します。
- ウ. 豪雨や地震等災害対策においても、合理的・効率的な構造・仕様を検討し、資料の保存と利用者の安全確保に努めます。

(5) 環境保全への配慮

- ア. 省エネルギーに効果のある建築デザインや設備を採用し、環境への負荷を抑えます。
- イ. 環境に配慮した資材・物品の調達に努めます。
- ウ. 意匠や内装等への木材の利用について配慮し、市産材または県産材の調達及び使用に努めます。
- エ. 工事に際しては、環境への影響の少ない工法、建設機械を採用するとともに、可能な限り周辺地域への影響の低減に努めます。

2 求められる諸室機能と構成

新博物館での活動に求められる諸室機能を以下に整理します。諸室機能は、「エントランス・交流エリア」・「展示エリア」・「収蔵エリア」・「調査研究・管理運営エリア」の4つの機能別エリアに分類し、公開範囲の設定や新館及び岩国徴古館との機能分担の検討に活用します。

エントランス・交流エリア（公開）

エントランス

施設の入口として、わかりやすい館内動線設計、必要設備の配置を行います。

【設計機能与件】

- 施設入口には風除室を設置します(自動扉)。
- 施設の総合案内機能である受付、及びミュージアムショップを設置します。
- 多目的トイレや授乳室等快適に過ごすことのできる設備を整備します。
- ロッカー室、もしくは受付にクローク機能を設置し、展示室内に大型の荷物を持ち込まずに展示観賞が行える環境をつくれます。

講座室

研究発表、講演会、各種イベントの開催、また団体のガイダンスや待機場所として対応できる空間とします。

【設計機能与件】

- 70人程度の講演会開催が可能な広さを確保します。
- 可動間仕切り壁等、可変性のある設えを検討します。
- 多目的に使用できるよう、机椅子等の什器の他、音響設備・プロジェクター等の整備も検討します。
- 団体の待機休憩場所としての利用も想定します。持ち込み飲食の可否等利用条件については、展示収蔵環境への影響を考慮しながら検討を進めていきます。

交流室

小規模のワークショップや講座活動のほか、展示ガイドやワークショップ等のボランティア活動の拠点となる空間とします。

【設計機能与件】

- ボランティアのミーティング、作業、休憩待機等に使用できるスペースを確保します。
- ボランティアの受け入れと活動範囲については、教育普及活動の一環として検討中のため、活動内容と並行して詳細な機能設備の検討を進めていきます。

2 求められる諸室機能と構成

展示エリア（公開）

常設展示室

「岩国のうつりかわり」を導入展示として各時代展示へ導く通史展示室です。

[設計機能と件]

- 展示は実物資料だけではなく、映像・音声・模型・参加体験型展示等の手法も取り入れ、誰もが親しめるわかりやすい展示とします。
- 全ての利用者が快適に展示を楽しむことができるよう計画します。身体が不自由な方や外国人の利用者も参加できるように配慮した展示解説手法を検討します。
- 展示に関心を持った利用者が探究心に応じて自身の端末等で必要な情報を適宜調べられるよう、無料Wi-Fi、5G、LTE等外部への公衆回線利用可能な環境整備を検討します。
- 団体の利用者案内及び災害時の避難誘導に十分配慮した空間配置とします。
- 実物資料の展示にあたっては、その保存と管理に十分配慮し、また、資料を安全かつ迅速に入れ替え可能な展示方法を検討します。
- 将来的なリニューアル及び展示内容の容易な更新を考慮した展示方法を検討します。
- 展示物の吊り下げボタンやライティングダクト等の天井設備、什器固定については可変性の高いものとして、展示内容の更新に対応しやすい構造とします。
- 映像及び音声の導入にあたっては、メンテナンスや交換品調達が容易な仕様設計を行います。
- 基本的に外光を遮断し、紫外線の進入を防ぐことのできる配置計画とします。
- 電気設備と照明設備は展示資料やメンテナンスに配慮したものとし、原則として、LED及び紫外線カット、波長調整や演出機能を備えた照明の導入、展示演出や映像情報を踏まえた十分な電気容量、用途運用を考慮した分電盤、調光盤回路の検討を行います。
- 監視カメラやモニタリング設備のセキュリティ環境、消火設備を検討し、展示資料の安全維持に努めます。

企画展示室(公開承認施設対応)

企画展示の開催スペースとして、貴重資料や他館からの借用資料の展示が可能な室内環境を持った展示環境を備えます。

[設計機能と件]

- 温度 $22^{\circ}\text{C} \pm 2$ 、湿度 $55\% \pm 5$ を基準として、恒温恒湿の室内環境を保つため、十分な単独空調設備と2重壁の区画を備えた空間とします。
- エアタイト式の展示ケース設備を備えます。
- 外光を遮断し、紫外線の進入を防ぐことのできる配置計画とします。
- 電気設備と照明設備は展示資料やメンテナンスに配慮したものとし、原則として、LED及び紫外線カット、波長調整や演出機能を備えた照明の導入、展示演出や映像情報を踏まえた十分な電気容量、用途運用を考慮した分電盤、調光盤回路の検討を行います。
- 監視カメラやモニタリング設備のセキュリティ環境、温湿度モニタ管理設備を整え、展示資料の安全維持と厳密な管理に努めます。
- 消火については、ハロン消火、もしくは窒素消火による消火設備を備えます。
- 資料動線には前室を設け、荷解室及び収蔵庫との動線に十分に配慮し、利用者動線やメンテナンス動線と交わらない資料動線設計を行います。

2 求められる諸室機能と構成

展示エリア（公開）

郷土文化展示コーナー

岩国ゆかりの人物に関する展示、岩国の無形文化に関する展示を行います。
また、ライブラリーを併設し、関連資料やアーカイブの検索閲覧等関心に合わせた探求が行える学びの場を整えます。

【設計と件機能】

- 入室しやすく居心地の良い空間づくりを行います。
- 市民の学習から観光客による情報収集まで、多様な目的に合わせた情報発信を行います。
- 郷土の伝統芸能や文化を知るミニ視聴覚展示や、人物紹介パネルの設置のほか、一部実物展示も行います。
- 岩国の歴史や文化に関わる関連図書や参考文献の配架のほか、文化財や史跡の情報等が閲覧できるアーカイブPCを設置します。

2 求められる諸室機能と構成

収蔵エリア

収蔵庫

所蔵資料の保存と借用資料の一時保管に対応します。耐火性・耐震性・安全性を有する機能とするとともに、館所蔵の貴重文献他、重要文化財級の資料の借用を想定し、公開承認施設対応の設備整備を行います。

[設計機能与件]

- 他館の国指定文化財の一時借用も可能となるよう、文化庁指針を遵守します。
- 2重壁構造の採用及び前室の設置により外気との遮断を行った上で、温度 $22^{\circ}\text{C}\pm 2$ 、湿度 $55\%\pm 5$ を基準として、恒温恒湿の空調による温湿度管理をします。
- 収蔵庫内温湿度管理に関しては、温湿度データの年間確認のほか借用資料借受時に提出する24時間温湿度データを管理出来るシステムの導入を検討します。
- 収蔵資料の特性を踏まえ、収蔵庫棚の仕様設定と分類配置を行います。
- 耐火性及び耐震性を確保し、ハロン消火もしくは窒素消火による特殊消火設備を導入します。
- 博物館IPM（総合的病害虫管理）の考え方に則り、虫・カビ等生物被害の定期点検と徹底的な防除が行いやすい空間配置を検討します。
- 荷解室及び前室とは同じ床高さで水平移動が可能な収蔵庫扉仕様を導入します。
- 資料動線については、資料の安全管理上、研究室・企画展示室との連絡動線に配慮します。
- 計画地の洪水浸水想定2.0m以上5.0m未満を踏まえ、収蔵庫は2階に配し、床高さを5.0m以上に設定します。

■収蔵棚仕様設定例

	収蔵資料分類	収蔵庫棚仕様
1	借用資料、美術品資料	スチール製免振耐震棚
2	文書資料、木製品資料、金属製資料	スチール製耐震棚
3	民俗・民具資料	木製収納棚

2 求められる諸室機能と構成

調査研究・管理運営エリア

研究室

学芸員による日常執務・研究活動スペース。また、研究情報のデータベース登録等のネットワーク作業も行います。

[設計機能与件]

- 管理運営エリアの各室と収蔵庫との連絡動線を考慮します。
- 作業机及びPC電源、LAN配線設備を検討します。
- 修復作業等に必要な給湯設備を設置します。
- 十分な書庫スペースを確保し、床荷重を考慮した計画とします。

事務室

事務スタッフや案内スタッフの日常執務・待機スペース。

[設計機能与件]

- 作業机及びPC電源、LAN配線設備を検討します。
- 更衣スペースを設置します。
- 給湯設備を設置します。

会議室

館職員による会議等に使用するスペース。

[設計機能与件]

- 10人程度の会議が行える広さを検討します。
- 利用者による事前申請を受けて、館蔵資料の閲覧する資料閲覧スペースとしても利用します。

トラックヤード・荷解室

搬入用トラックの収容、開梱・梱包作業等が可能なスペースを確保します。

[設計機能与件]

- 美術梱包車※を格納した状態でシャッターを閉められるトラックヤードを設置します。
- トラックヤード内外のシャッター開閉は降雨や強風に配慮します。
- 資料動線と利用者動線が交錯しない配置を計画します。

※：公開承認施設の要求水準としては、4tトラックが完全に格納できることが求められる。

2 求められる諸室機能と構成

その他

倉庫

[設計機能与件]

- 館内備品の保管場所として必要十分なスペースを確保します。

機械室

[設計機能与件]

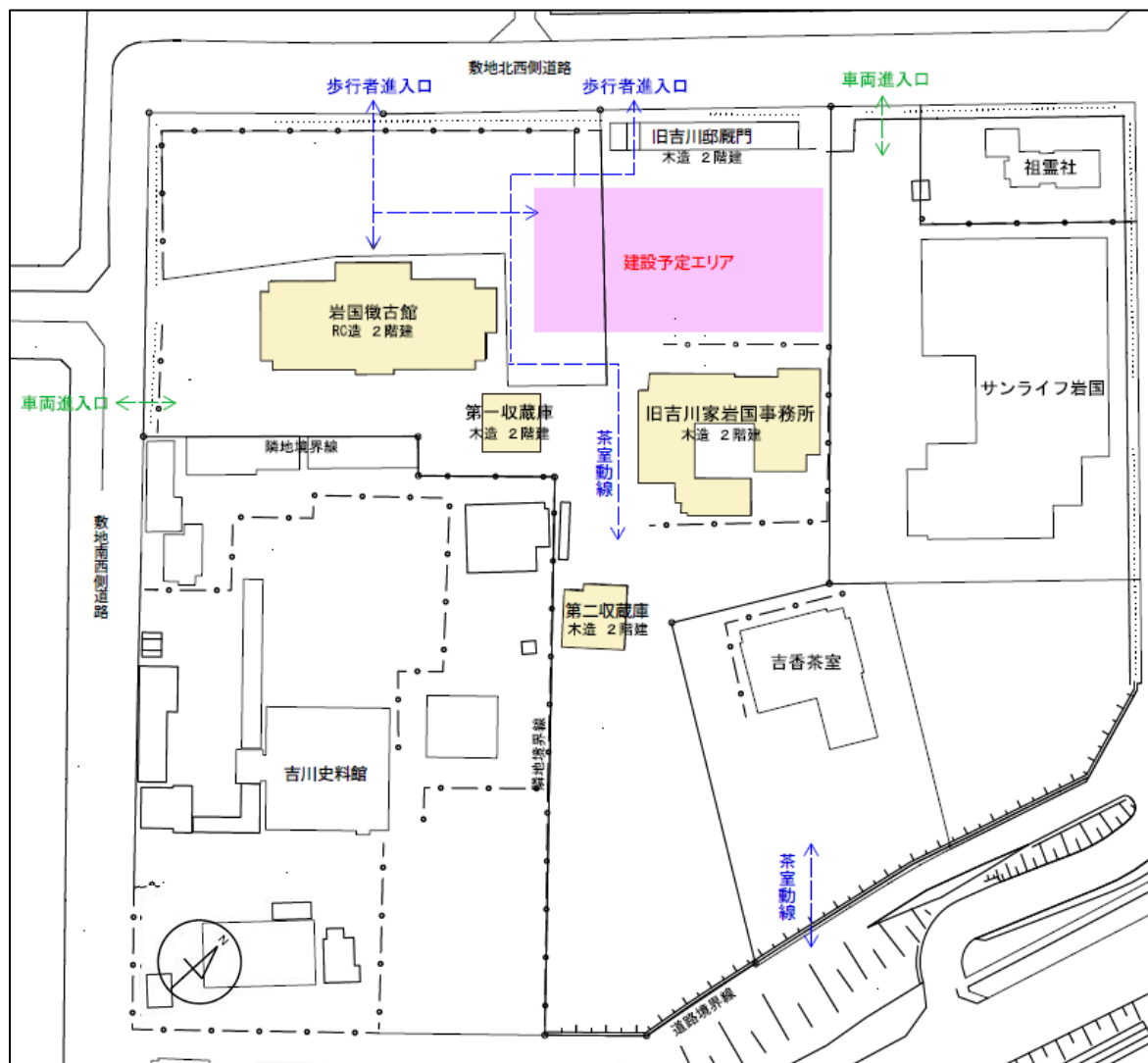
- 電気室、空調機械室、消火機械室を整備します。施設の用途や規模を勘案し、必要な天井高と面積を確保します。
- 電気室は室内に水が侵入しないよう計画します。
- 空調機械室は騒音・振動対策を十分に行います。
- 屋外設備機器置場はメンテナンスのしやすさに配慮するとともに、外観を損なわないよう計画します。
- 利用者動線・資料動線と交わずにメンテナンスが行える動線配置を計画します。

3 立地環境と施設の想定規模

(1) 立地環境

岩国市博物館等施設再整備計画において検討したように、新博物館は岩国徴古館を含む形で、一体的に展開していく方向性が考えられます。以下、岩国徴古館周辺で新館を設置する場合の建設予定エリアを検討しました。

新館の建設予定エリアは資料の管理体制や運営を一体として考えた際に、岩国徴古館の北東側が適切と判断しました。



(2) 新館の想定規模

- 新博物館の基本理念実現に向け、諸活動を支えるための諸室と設備を配置することや、将来の歴史資料の増加を見越したスペースを確保することを考慮したうえで、新館としての延床面積は約1,800㎡程度として想定します。
- 資料搬入時の車両進入口確保のため、隣接するサンライフ岩国との調整が必要になります。

4 施設計画における配慮事項

(1) 関連法令、敷地条件の整理

制限の種類	該当項目
用途地域（都市計画）	第一種居住地域（防火・準防火地域の指定無し）
都市公園法第4条 都市公園法施行令第6条	原則建蔽率2%以内※1、特例により+20%まで緩和※2
岩国市風致地区条例 錦帯橋風致地区第2種風致地区	高さ：10m以下
	建蔽率：40%以下
	道路境界線及び隣地境界線より外壁面を1m以上セットバック
	意匠：和風等
	緑地率：20%以上
	その他：5.0m以上の木竹の伐採規制
既存不適格建築物について	岩国徴古館及び旧吉川家岩国事務所及び収蔵庫への構造、防火、避難規定における既存不適格適用
建築基準法 第22条区域	屋根：不燃材料等 外壁（延焼のおそれのある部分）：準防火構造 ※新博物館と隣接建物の外壁間の中心線から1階部分3.0m、2階部分5.0mの以内の部分の外壁が耐火構造に該当
岩国市景観計画 横山重点地区内歴史散歩地区	屋根：勾配3.5～5.5寸の切り妻・寄棟・入母屋屋根、瓦葺き
	高さ：原則2階以下
	外壁（開口部）：和風の色彩・形態（具体的規定あり）等
「錦川下流域における錦帯橋と岩国城下町の文化的景観」 保存活用計画 横山地区	土地利用の方針として以下に留意し、景観の保存を図る。 ・武家地に由来する地区では、道路沿いに塀が連なり、門の向こうに低層の住宅が配され、前庭の庭木とともに塀越しに屋根や壁面が垣間見えるという、武家屋敷地の構えを継承した風格あるまちなみの保全を図る。また、武家地に由来する地区であることを今に伝える、比較的広い敷地による街区からなる土地利用を保全・継承する。 ・吉香公園では、岩国城下町の中枢を担ってきた場所性（公共性）、吉川家関連施設を継承するとともに、物見の往来をもてなす空間にふさわしい、落ち着きと賑わいが調和した景観の保全を図る。
	岩国徴古館・旧吉川家岩国事務所が横山地区の重要な構成要素に該当。 保存対象：建築物の位置・建築物の外観

※1：敷地面積に対する建築面積の割合。

※2：国土交通省都市局「都市公園法」により建蔽率の対象外施設となるため特例が該当。

(2) 施設計画における配慮事項

ア. 配置計画・アプローチの考え方

- 新博物館は、岩国徴古館と新館、既存の別棟となる旧吉川家岩国事務所・第一収蔵庫・第二収蔵庫で構成されます。
- 第一収蔵庫、第二収蔵庫は引き続き収蔵庫として利用し、旧吉川家岩国事務所については、今後も活用を検討していきます。
- 利用者動線と搬入動線は分離します。
- 歩行者アプローチは、敷地北西側道路からの進入を想定します。
- 関係者車両アプローチは、敷地南西側道路の南寄りからの進入を想定します。ただし、資料搬出入時の美術梱包車の車両アプローチに関しては、新館トラックヤードの配置に考慮し、敷地北西側道路からの進入を想定します。
- 周辺施設及び吉香茶室等に向かう園路動線を考慮します。
- 設計に際して、敷地周辺の測量を行い、公園内各施設の隣地境界線の確定を行います。

イ. 立面・内装計画

- 景観計画及び風致地区条例を十分に考慮し、周辺環境ならびに既存館である岩国徴古館との調和に配慮した建物デザインや色彩計画とし、建物の長寿命化及びメンテナンス性を考慮した計画とします。
- 内装計画は、各室に必要な機能を確保し、清掃管理の容易性、利用者の安全配慮等各室の性質に合わせてふさわしい性能を有するものとします。将来的な展示計画を考慮して、展示内容の更新等に柔軟に対応できるようにします。
- 意匠や内装等への木材の利用について配慮し、市産材または県産材の調達及び使用に努めます。
- シックハウス等による健康被害を予防するための対策を講じます。

ウ. 断面計画

- エントランスホール及び展示室、収蔵庫等はゆとりある天井高を確保します。
- 展示室及び収蔵庫は資料保護のため外光を入れないものとします。
- 収蔵庫は、資料保護のため温湿度変化の少ない配置を検討します。
- 洪水浸水想定区域を考慮した防災計画を行います。（当該地域は2.0m以上5.0m未満区域）

エ. 構造計画

- 耐火性及び耐震性に優れた構造とします。
- 展示室等は高い観覧機能と、将来の展示更新に備えた可変性を持たせるため、極力、柱の少ない構造を検討します。
- 経済性に十分配慮した構造形式を迫及します。
- 岩国徴古館では耐震改修工事を行います。また、旧吉川家岩国事務所・第一収蔵庫・第二収蔵庫についても、利用目的を踏まえて必要な改修を検討し、実施します。

オ. 設備計画

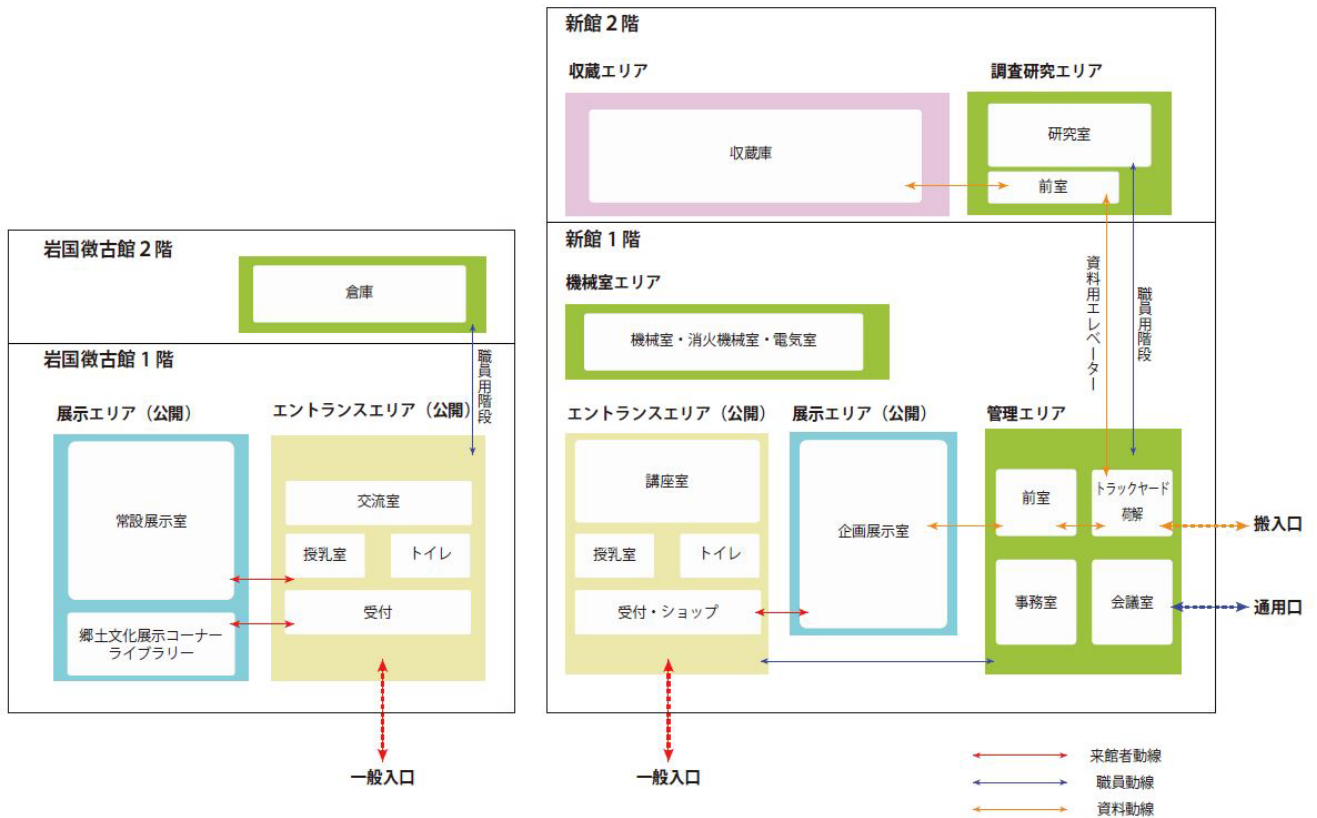
- CO2削減や省エネルギー等の検討をします。電気設備や機械設備は、イニシャルコストやランニングコスト、メンテナンスについても配慮した計画として、新技術や新機材の調査・検討を行います。
- 多くの利用者が集まる公共施設として、耐震耐火、その他の防災性を確保し、防犯面への配慮等安全性と安心が確保された施設とします。

5 施設構成案

諸室機能、施設条件を踏まえ、新博物館において求められる施設機能構成及び諸室面積を想定しました。

なお、諸室面積については基本計画検討段階での想定値であり、今後の調査や設計での詳細化に応じて変更が発生することを前提とします。

(1) 施設機能・構成概念図



5 施設構成案

(2) 諸室面積表

施設名	棟別想定面積（㎡）		エリア別面積（㎡）	備考
	岩国徴古館	新館		
エントランス・交流エリア（公開）				
エントランス	120	170	430	受付、WC、ロッカー等を含む
講座室		120		70人収容、セミナー・WS利用等
交流室	20			
展示エリア（公開）				
導入展示	10		655	岩国徴古館エントランスに配置
常設展示室 1	145			
常設展示室 2	135			
ホワイエ		50		企画展示室の導入空間
企画展示室		255		前室含む
郷土文化展示コーナー	60			
収蔵エリア				収蔵環境管理の面から、原則新館に集約
前室		50	550	資料整理・簡易燻蒸スペースを兼ねる
収蔵庫		500		文化財の保管に最適な温湿度管理が可能
調査研究・管理運営エリア				収蔵環境管理の面から、原則新館に配置
研究室		70	250	書庫、調査作業場含む
事務室		40		
会議室		40		
トラックヤード・荷解室		100		美術梱包車を格納
その他				
倉庫	125	70	315	
機械室		120		機械室、電気室、消火機械室、室外機置場
通路・供用関係ほか				
供用部	30	215	245	廊下、EV、階段等含む
合 計	645	1,800	2,445	なお、既存部改修の対象として、第一収蔵庫・第二収蔵庫等も含む（255㎡程度）

第4章

展示計画

1 展示の基本的な考え方とコンセプト

(1) 展示の基本的な考え方

新博物館は各地域が市として一体となったことを歴史文化の視点から伝えていく施設として位置づけられます。展示の中でも“ここに来れば岩国市の歴史がすべてわかる”ことを目指していく必要があります。

大人から子供まで体験展示等を通して歴史や文化を楽しく学ぶことができる施設として、検討を進めていきます。

(2) 展示コンセプト

ここに来れば岩国市の歴史がすべてわかる

(3) 展示エリア構成

新博物館の展示エリアは、常設展示室・郷土文化展示コーナー・企画展示室の3つのエリアで構成します。

基本計画段階では各展示エリアの必要機能を踏まえて、新館に企画展示室を、岩国徴古館に常設展示室と郷土文化展示コーナーを配置することを想定します。

【新館】

企画展示室

館所蔵資料や他館からの借用資料をもとに企画展示を開催する企画展示室を設置します。高い水準の展示収蔵環境を整え、かつ、レイアウトや展示設備の自由度を確保するため、新館への配置を想定しています。

【岩国徴古館】

常設展示室

導入展示「岩国のうつりかわり」を起点として、原始・古代から現代までの通史展示で、岩国の歴史文化を紹介する展示室です。

展示項目の選定については、各時代の地域の特徴をよく反映したトピックを取り上げるとともに、岩国市域全域をバランスよく取り上げることを前提として検討を進めていきます。

郷土文化展示コーナー

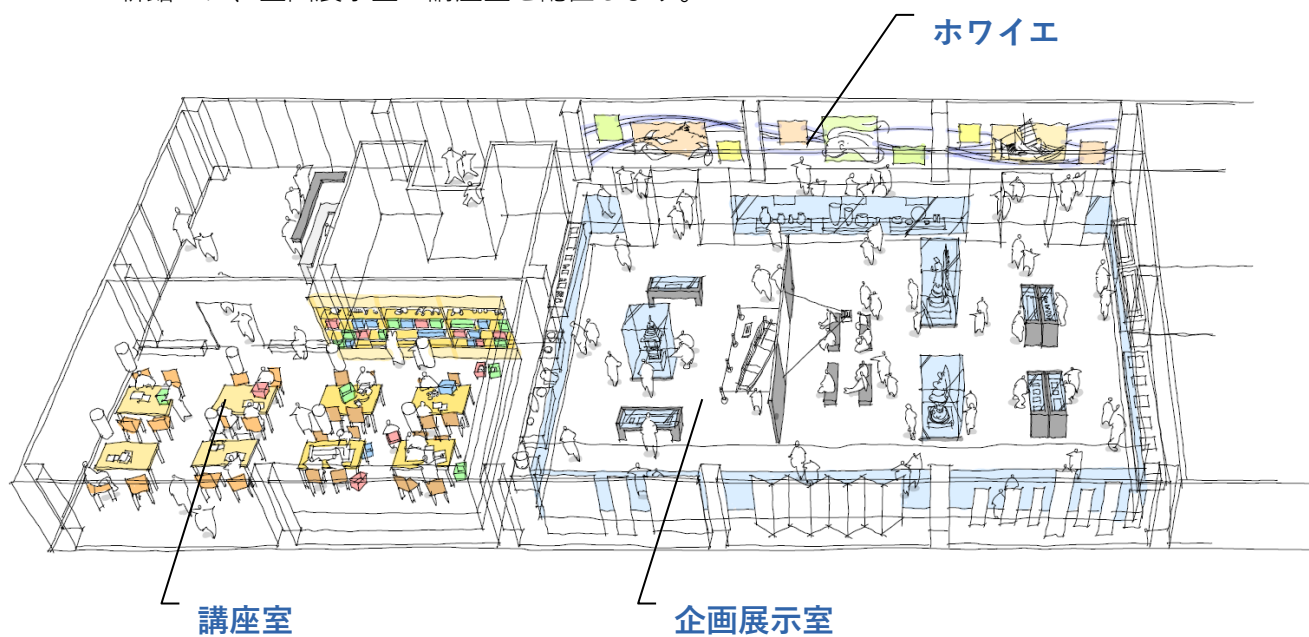
ライブラリーを併設し、岩国ゆかりの人物展示や、地域の方言やまつり・習慣等を紹介する無形文化展示を行う展示コーナーです。

岩国ゆかりの人物の功績や人となりを出来事や作品等とともに紹介する人物展示や、地域の方言やまつり・習慣等を紹介する無形文化展示を行います。

2 展示室全景イメージ

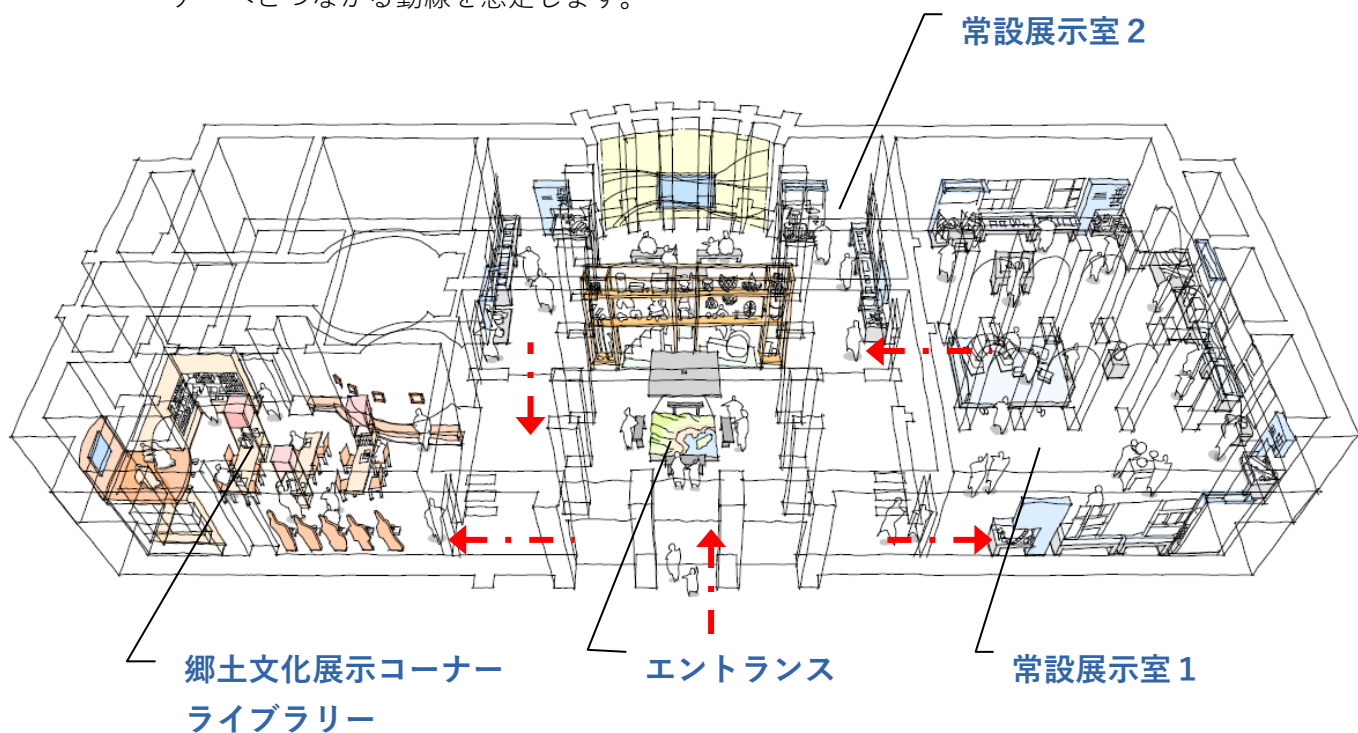
■新館 各室構成

新館には、企画展示室と講座室を配置します。



■岩国徴古館 各室構成

岩国徴古館は、導入展示を配したエントランスを起点に、常設展示室と郷土文化展示コーナーへとつながる動線を想定します。



3 展示構成及びコーナーイメージ

(1) 新館 企画展示室

新館には、企画展示室と講座室を配置。企画展示室では、重要文化財レベルの貴重資料の展示や巡回展の誘致も可能な、高い水準を持った展示収蔵環境を整備します。

■コーナーイメージ

●企画展示室



企画展示から市民ギャラリーまで、
目的に合わせて自由にレイアウト可能な
仕切り壁・展示照明

空調機能やエアタイトケースの充実等
高い水準の展示収蔵環境を整備

●ホワイエ



企画展示室に向かうホワイエ壁面には
ゆかりの作家による岩国に関するモチーフ
イラスト等を投影し、期待を高める

企画展示の内容に合わせた特別な映像コ
ンテンツへの切り替えも可能とする

●講座室



レプリカや体験資料をまとめた体験キッ
トボックスを設置し、様々なワークショ
ップを行える環境を整える

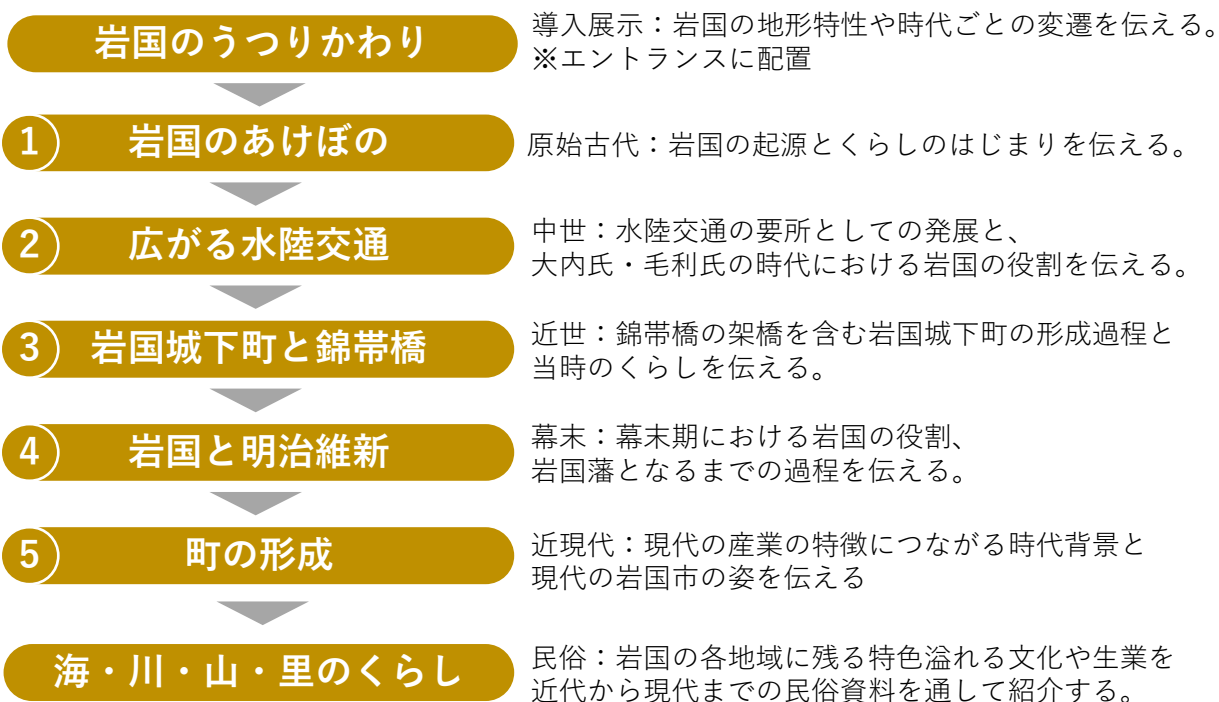
収蔵庫と同じ新館に講座室を配置するこ
とで、収蔵資料を活用したセミナーの開
催も可能とする

3 展示構成及びコーナーイメージ

(2) 岩国徴古館 常設展示室

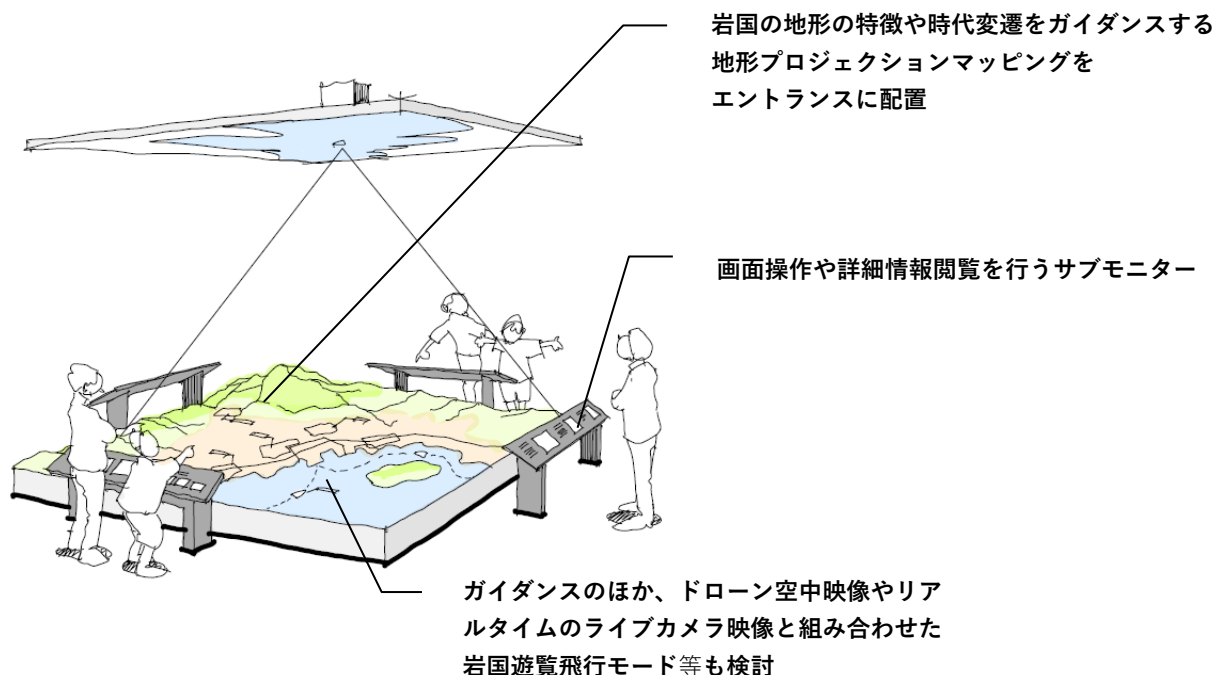
常設展示室では、古代から近現代まで時代の流れに沿って、岩国の歴史と文化を紹介していきます。

■展示構成



■コーナーイメージ

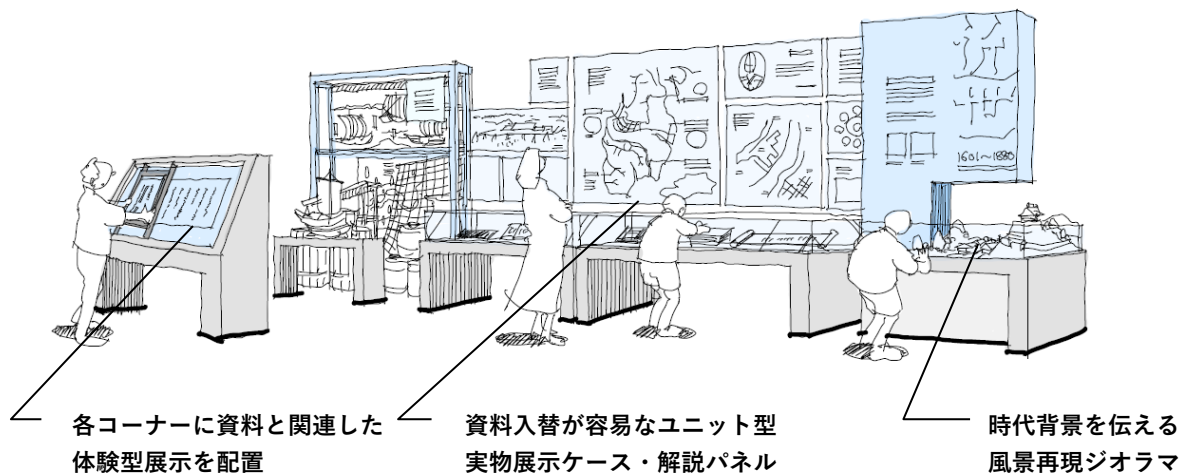
【導入展示】岩国のうつりかわり



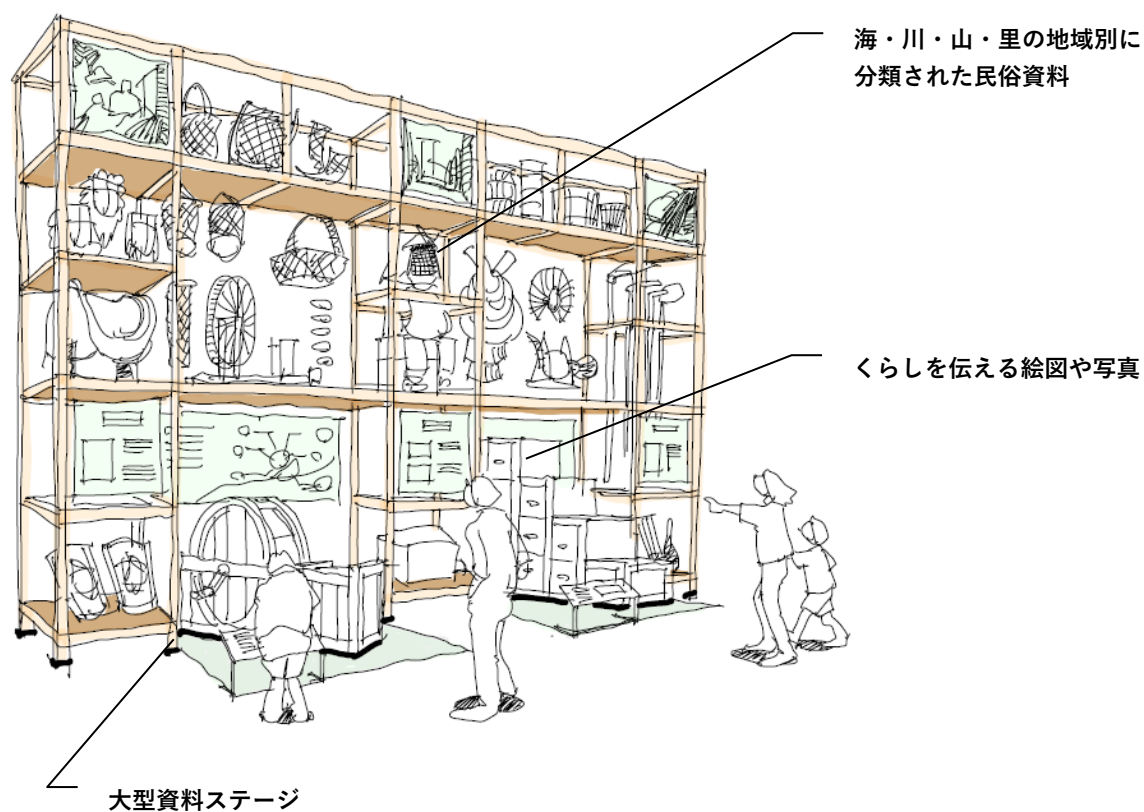
3 展示構成及びコーナーイメージ

■コーナーイメージ

【近世】岩国城下町と錦帯橋



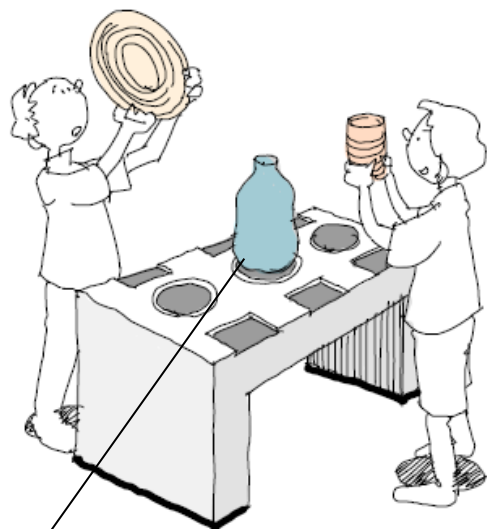
【民俗】海・川・山・里のくらし



3 展示構成及びコーナーイメージ

■展示手法及び体験展示アイテム案

●五感で楽しむハンズオン展示



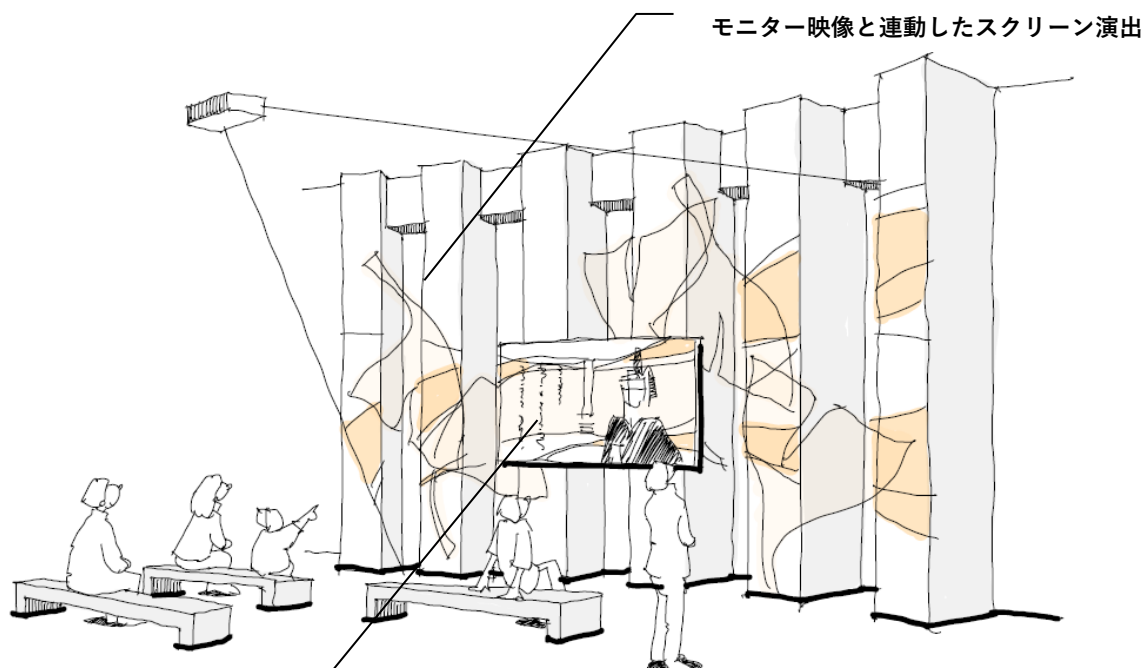
細かな凹凸や重さまで精巧に再現した
レプリカ

●資料への関心を深めるデジタル展示



古文書の読み方をレクチャーする
AR端末

●ダイナミックな映像で伝えるシアター展示



モニター映像と連動したスクリーン演出

明治維新を題材にしたストーリー映像のほか、神楽や鶺鴒等
地域の伝統芸能や民俗文化を記録した高画質映像を放映
(100インチ程度のモニターを想定)

(3) 岩国徴古館 郷土文化展示コーナー

郷土文化展示コーナーでは、岩国市出身、あるいはゆかりの深い歴史上の人物を、その偉業や功績を生い立ちや人となり、事件や作品等と共に紹介する人物展示や、地域の方言やまつり・習慣等を紹介する無形文化展示を行います。

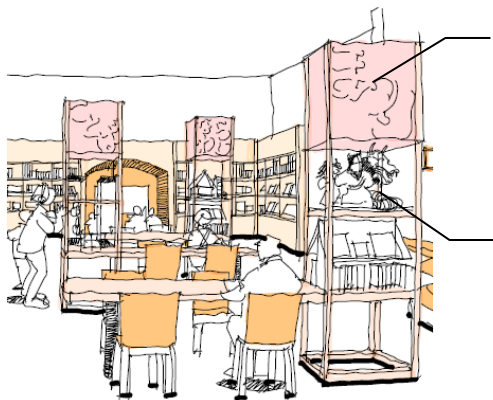
また、ライブラリーを併設し、関連書籍の閲覧やデータベース利用が行える環境を整えます。

■コーナーイメージ



■展示手法及び体験展示アイテム案

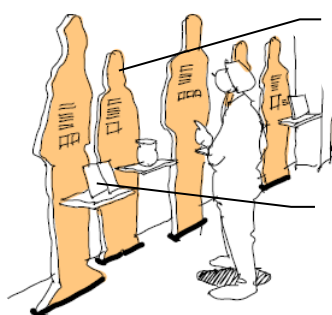
●岩国の無形文化に触れる展示



「まつり」「ことば」「ならわし」等
テーマ別に関連書籍が配架された閲覧ボックス

まつりの道具を実際に動かしながら学ぶミニチュアや、岩国の民話や方言を学べるコンテンツ等、テーマに合わせた体験コンテンツを配置

●岩国の偉人を知る展示



実際の写真から等身大で模った紹介パネル

著書やゆかりの品を展示

●読み聞かせコーナー（低年齢向け）



岩国の民話や歴史を伝える
紙芝居・絵本を配架

3 展示構成及びコーナーイメージ

(参考) 各展示エリア展示項目案

展示エリア	コーナー	展示項目 (例)
常設展示室	導入：岩国のうつりかわり	・岩国の地形、地理的条件 ・海岸線、川筋の変化 ・時代ごとの考古遺跡・史跡マッピング ・時代ごとの街道や交通網の変化 ・時代ごとの国割り、地域区画の変化 ・岩国市全域航空写真（現在の岩国市）
	原始古代：岩国のあけぼの	・旧石器時代の岩国（冠高原の旧石器時代遺跡群や宇佐平遺跡等） ・弥生時代における集落の形成（清水遺跡） ・古墳時代の岩国（筏山古墳・北方古墳・白田古墳等） ・玖珂郡の成立 ・古代山陽道及び駅馬伝馬に関する交通制度 ・延喜式における「石国駅家」・「野口駅家」の設置 ・万葉集における「磐国」の記載
	中世：広がる水陸交通	・玖珂郡石国郷から石国庄への展開 ・山代庄、玖珂庄の成立 ・林産資源運搬の結節点 ・岩国における豪族の存在（名主、荘官、刀祢の発展過程） ・大内氏、弘中氏による統治と瀬戸内海の交易 ・永興寺 ・中津居館跡 ・厳島合戦後、大内氏の支配から毛利氏の支配へ（鞍掛合戦に代表される、毛利氏の防長攻略） ・海辺の領主（警固衆）の拠点 ・大内時代の由井氏や神代氏、毛利時代の川ノ内衆・賀陽氏等）
	近世：岩国城下町と錦帯橋	・関ヶ原の戦い後、岩国領としての吉川氏による統治 ・岩国領と本藩領について ・岩国城の築城 ・吉川広嘉による錦帯橋の計画・錦帯橋の架橋 ・洪水による錦帯橋の流失と再建 ・藩政の安定期と干拓事業の拡大 ・毛利本家との関係修復、家格の向上への動き ・廻船業の発展（由宇の山中家・嶋谷家、岩国の塩屋甚左衛門等） ・朝鮮通信使と岩国 ・岩国における教育・文化（武家教育としての養老館、往来物等の庶民教育） ・岩国半紙の展開と専売制
	幕末：岩国と明治維新	・吉川経幹の活躍（国事周旋、国境としての位置づけ） ・幕長戦争（第一次長州出兵、第二次長州出兵） ・諸隊の編成 ・岩国藩への過程 ・岩国三士、赤禰武人らの活躍
	近現代：町の形成	・杉民治と山代 ・岩国英国語学所と岩国の近代教育 ・義済堂と近代岩国の地域社会 ・藤岡市助による岩国電気軌道の創業 ・軽工業の発展（帝國人造絹糸、山陽パルプ工業、東洋紡績） ・鉱業の発展（喜和田鉱山、河山鉱山等） ・岩徳線・岩日線等の鉄道敷設、陸上交通網の整備 ・軍事都市としての発展（岩国海軍航空隊、予科練の設置） ・第二次世界大戦と戦後 ・町の繁栄（錦帯橋観光、錦帯劇場等） ・旧役場文書 ・キジア台風による錦帯橋流失と昭和の再建 ・平成の大合併から現在の「岩国市」へ
	民俗：海・川・山・里の暮らし	・暮らしや生業に関わる民具や、絵図・写真展示 ・海のなりわい（漁業、造船、廻船、紡績等） ・川のなりわい（鵜飼等） ・山のなりわい（林業、焼き物等） ・里のなりわい（農業、岩国半紙等）
郷土文化展示コーナー	ライブラリー	・岩国の歴史文化に関する図書を集めたスペース。 ・情報探究や調べ学習にも使えるようアーカイブ端末等も整備。
	岩国偉人伝	・岩国ゆかりの人物の功績・生い立ち・人となりを、作品や出来事等と共に紹介する人物展示。（玉乃世履、有坂成章、田中稻城、永田新之允等。）
	岩国ものしりボックス	・方言、料理、年中行事、伝統芸能、まつり等岩国の無形文化
	岩国ものがたり劇場	・岩国の民話や出来事を伝える子供向けの読み聞かせ、紙芝居

大人から子供までわかりやすい展示を目指し、解説キャプションについては、小学校3年生から理解できることを一つの指標として、簡潔でわかりやすい言葉、総ルビ等を心がけた解説づくりを行います。

また、学校での事前事後学習や、大人や観光客にも配慮した手法として、館内及び館外で、博物館の展示に関する詳細情報やコラムにアクセスできるガイドツール等、デジタル技術も用いながらより詳しい情報を提供できるようにしていきます。

■解説ツール例：館内ガイドシステム案

利用者所有のスマートフォンやタブレット等の通信端末を用いて、QRコードでのWebページアクセスや専用アプリを活用する館内ガイドの整備を検討していきます。

①音声ガイド

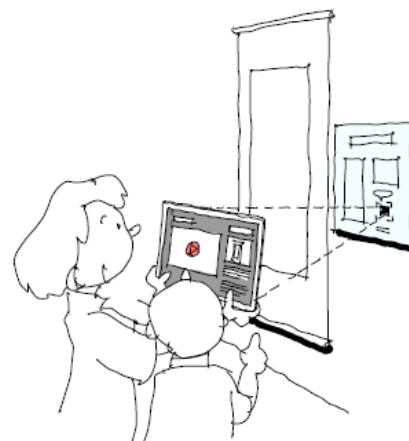
館内展示の音声ガイドを提供します。多言語対応や視覚障がい者向けバリアフリーガイドとして、解説情報についても利用者に合わせた内容を検討します。

②詳細解説

テキストだけでなく、静止画・動画・位置情報等のコラムコンテンツを追加することで、詳細・関連情報を提供することを検討します。

③ガイドマップ

展示観覧の解説に限らず、史跡、地域の文化・産業等館外の街あるきにも持ち出していただけよう、閲覧情報のブックマークやマイマップ等適した機能を検討していきます。



〈参考〉導入手法のパターン

	メリット	デメリット
アプリ型	・カメラを使用したARやGPSマップ等の機能の動作がブラウザに比べ安定するため多機能向き。 ・一度ダウンロードすれば通信費がかからず、アクセスがスピーディ。	・ダウンロードに手間がかかる。 ・制作や更新時のコストが大きい。 ・OS更新等で不具合が発生しやすい。
ブラウザ型	・QRコード読込だけで利用ができ手軽。 ・更新修正が容易で制作コストも安価。	・利用の度に通信費が発生する。 ・Webページを掲載するサーバー確保が必要。

第5章

教育普及活動計画

(1) 様々な利用者層や関心タイプに応じた多様なプログラム展開

- ア. 生涯学習の場として、子供から高齢者まで幅広い世代や多様な関心を持つ方々に向けて、岩国の歴史と文化に触れられる活動メニューを整備します。
- イ. 市内の学校を活動の重点ターゲットの一つとして定め、学校向けプログラムや教育ツールの整備を検討します。

(2) 資料や展示等実物を通した学びの切り口を広げるプログラム展開

- ア. 「本物の資料にふれる」という博物館の最大の特徴を活かし、実物資料の活用を重視して検討していきます。
- イ. 展示室内の資料を用いながら、資料の見方や博物館での学び方・楽しみ方を伝えるプログラムや教育ツールの整備を検討します。

(3) 博物館での研究成果と、活動の意義を伝えるプログラム展開

- ア. 所蔵資料に関する調査をはじめ、岩国の歴史に関する調査研究成果を伝える講演活動やスポット展示等を定期的に開催します。
- イ. 調査・記録、収集・保存、研究という博物館業務に焦点を当てたプログラムを行い、資料を後世に伝えていく博物館活動への理解・関心を深めていただくことを目指します。

(4) 地域に根付くネットワークづくりと、地域へ届けるプログラム展開

- ア. 岩国市内の機関や周辺の文化施設との連携ネットワークを強化します。
- イ. 城下町地区をフィールドにした連携イベントや、公民館・学校等を活用したスポット展示等岩国市内各地域に博物館活動を届けるアウトリーチ活動を検討していきます。

2 教育普及活動のバリエーション

新博物館が多様な人々が集う学びと交流の場として機能することを目指して、現在、岩国徴古館で実施している講座やワークショップ活動を軸としながら、より幅広い利用者に向けたプログラムの展開を図っていきます。

(1) セミナー・講演会

昭和42年から岩国徴古館主催行事として続く郷土史研究会をはじめとして、岩国の歴史を中心としたセミナー・講演会を引き続き実施します。

(2) ワークショッププログラム

甲冑体験や表具体験、民俗資料を用いた生活体験ワークショップ、バックヤードツアー等、子供から大人まで楽しめる体験型プログラムやイベントを強化します。

(3) 定例講座

古文書講座等コース型の定例講座を引き続き開講し、生涯学習機会の提供を行います。

(4) 学校連携

岩国市内の学校と連携し、社会科見学や遠足等での博物館活用を促進する学習プログラム開発や、見学の事前学習や授業に活用できる体験キットの制作・貸出を検討します。また、教員に対しての研修や教材研究補助等の教育現場支援活動も行います。

(5) 地域連携活動

岩国市内の文化施設・支所・公民館と連携した交流展示や、周辺施設との合同展示・イベント等の連携企画の実施を検討します。

(6) 住民参加活動・ボランティア

解説ガイドや活動プログラムについて、博物館の活動を支える市民ボランティアの募集を検討します。ボランティア向け講座等で自らの学びを楽しみながら、市民・観光客や児童・学生等背景も世代も異なる利用者との新たな交流の場として博物館が機能するよう努めます。

(7) ガイドツールの整備

展示室解説には、詳細解説や視聴覚資料をWebページ上で閲覧できるQRコードを付ける等、興味関心にこたえるガイドツールの整備を行います。また、イラストやクイズを用いて展示資料の観察ポイントを伝える子供向けの展示ガイドブックや、マナーブックの作成を検討します。(展示解説については、p.37「第4章 展示計画 4展示解説の考え方」も参照のこと)

3 市内各地域との連携・発信活動

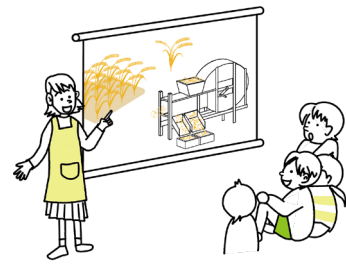
市内各地域・周辺との連携として、岩国市内外の文化施設、博物館等展示施設との連携強化を行い、企画展示を主軸とした研究活動及び展示活動に活かします。

また、支所・公民館・学校等を地域の連携拠点として、展示活動や交流活動等のアウトリーチ活動を行うことで、市民にとって博物館をより身近にする情報発信を行います。

■学校連携における活動アイデア

ア. 見学受け入れ

展示見学とワークショップを組み合わせた見学プログラムの提供等、学校・団体等の見学受け入れを強化します。



イ. 出前授業

岩国市内の学校を対象に、学芸員による出前授業を行います。

ウ. 体験キットの制作・貸出

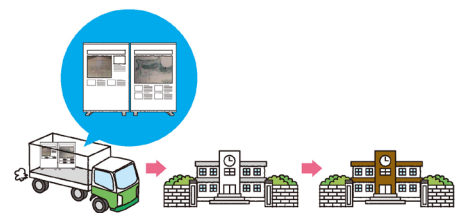
社会科授業や事前学習の教材として活用できる、レプリカや体験資料のセットボックスを貸し出します。



■支所・公民館等地域連携拠点における活動アイデア

ア. 巡回型スポット展示

最新調査報告等のスポット展示を各地域を巡回して行います。



イ. 質問BOX設置

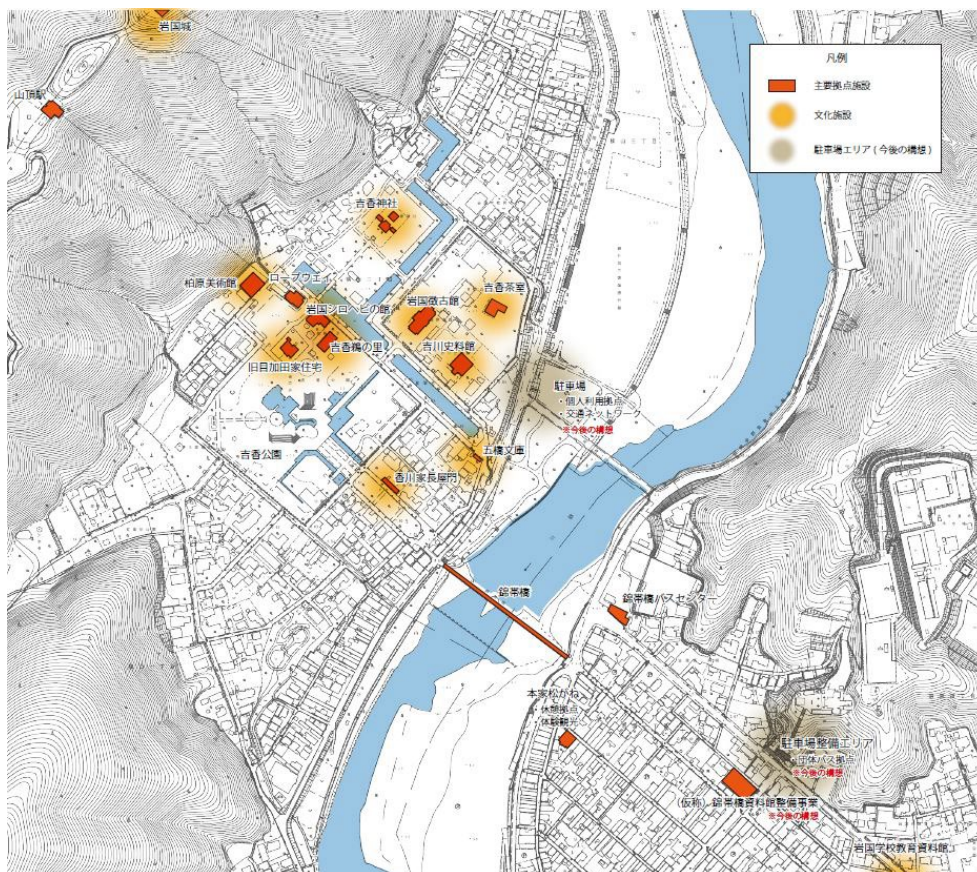
質問BOXを設置し、岩国の歴史文化に関する疑問を収集。館内での回答コーナーの設置や、広報いわくにでの情報発信、企画展示づくりへの活用を行います。

4 周辺施設との連携

新博物館の立地が予定される横山地区は、岩国城の城下町であり、岩国市の文化や歴史を楽しむ観光の要となっています。また、周辺には、岩国城・錦帯橋といった史跡名勝や、多くの文化施設が集まっており、関連施設を巡りやすく、施設同士の連携が望める立地となっています。

新博物館では、近隣の文化施設や城下町地区全体との連携を重視し、合同展示等の連携企画や文化行事への協力支援の実施を検討していきます。

■城下町地区・錦帯橋近隣図



■活動アイデア

①連携企画展

近隣文化施設との合同テーマ展示の実施。

②連携ガイドツアー

「城下町」「明治維新」「錦川」等のテーマのもと、史跡や施設を巡るガイドツアーの実施。

③観光施策との連携

文化行事と関連した周遊イベントへの協力や、周遊ツール（ガイドアプリ等）の提供を関係部局と連携しながら実施。



例) 錦帯橋芸術祭2021

ミュージアムスタンプラリー

第 6 章

管理運営計画

1 管理運営の基本的な考え方

(1) 開かれた博物館として、市民・利用者の立場に立った運営を行う

- ア. 多様な利用者や利用形態をふまえた、きめ細かな対応やサービスを行うとともに、ユニバーサルデザインにも配慮する等、だれもが博物館を利用できる取組を展開します。
- イ. 気軽に利用しやすい開館日時や利用料金等の設定を検討します。
- ウ. より多くの人が博物館を効果的に利活用できるよう、広報の充実に努めるとともに、多くの人や団体・機関等が博物館を知り、利用するための取組を積極的に展開します。

(2) 多様な主体との連携により、効果的な博物館運営を進める

- ア. 市内外の多くの人びとをはじめ、市内・県内の博物館や市町等関係機関、学校や大学・研究機関、地域の諸団体や他の文化振興拠点等、多様な主体と連携し、さまざまな力を結集することで、より充実した魅力的な博物館活動を幅広く展開します。
- イ. 多様な方に開かれた地域の生涯学習施設として、市民・利用者とのコミュニケーションを大切にし、様々な意見・要望等に応える活力ある博物館運営を展開します。

(3) 効率的な運営のもとで博物館の使命・役割を持続的かつ着実に果たす

- ア. 可能な限り運営の合理化・効率化をはかり、博物館の使命と役割にそった活動を、長期にわたって持続的かつ着実に展開できる運営とします。

(4) 博物館の質や魅力、市民・利用者の満足度を持続的に高める

- ア. 博物館が自ら実施する自己評価に加え、市民・利用者からのアンケートや、学識者等の参画による外部評価等、評価・改善システムの具体的な内容等については、今後も、継続的に調査検討を進めていきます。

2 開館形態

市民・利用者が気軽に訪れることができるよう、開館日時や利用料金を、他の施設の現況等をふまえて検討します。

(1) 開館日時

- 多くの人に利用していただけるよう配慮しながら、開館日・休館日を設定します。ただし、資料や展示、施設の適切な管理運営に留意し、定期休館日のほか、資料整理のための特別休館日を設けることを検討します。
- 多くの人々が利用しやすい開館時間を、周辺施設の利用や管理運営の効率性等を考慮して設定します。
- その上で、季節や曜日、企画展示の開催状況等に応じた開館時間の拡大、閲覧・レファレンス機能の利用時間の延長や平日夜間の講座開催等、利用者の要望等を把握しながら、柔軟で弾力的な開館時間を検討します。

(2) 利用料金

- 常設展示、企画展示の観覧については、原則的に有料とする方向で検討します。
- 料金設定については、無料利用や割引等の減免措置も含めて、市の方針に合わせて検討を行います。
- 周辺展示施設との相互割引や共通利用券の導入については、各管理部署・団体と協議の上、検討していきます。
- その他、資料等の特別利用(例:写真撮影、模造等)に関しても、目的に応じた料金設定についての検討を行います。

3 利用者に向けたサービス展開と広報

地域住民の気軽な集いの場、市民と来訪者の交流の場として愛される博物館を目指して、博物館をより身近に楽しんでいただくためのサービス展開を検討していきます。

(1) 多様な利用者への配慮

- だれもが安全で快適に利用できる施設とすることはもとより、多言語での音声ガイドや、小中学生向けのパンフレットや展示解説・ワークシート(教育段階に応じた展示見学・学習用の補助教材)の作成等さまざまな利用者が博物館を十分に利用できるよう、ユニバーサルデザインに配慮したきめ細かな運営を行います。
- 外国語対応については、岩国市への旅行者動向を踏まえて、順次対応言語の選定と拡大を進めていきます。

(2) 博物館の魅力や楽しさを高めるサービス展開

- 博物館活動に対して協力・支援を行うボランティア組織の設立や、博物館の継続的な利用者の拡大、広報の充実等に向けた友の会や地域スポンサーの組織についても検討を進めていきます。
- ミュージアムショップにおいては、博物館の収蔵資料を活用した博物館として特色あるオリジナル商品や館の出版物(展示図録、研究報告書、研究紀要等)、学術・教育面に配慮した商品等を開発・販売し、博物館の魅力を高めるよう努めます。
- ショップの運営については、博物館の理念にそった運営を行うとともに、博物館資料や地域の特色等に気軽にふれ、親しめるサービスとして展開していきます。
- 他の博物館等と連携した博物館見学ツアーや共通利用券の発行等、博物館利用を広げるサービスを検討します。

(3) 広報の充実

- 博物館の存在や活動理念、博物館の利用の仕方や楽しみ方、多彩な事業内容等が広く市民・利用者に伝わるよう、さまざまな媒体を活用した広報活動や他の博物館等と連携した広報活動を、新博物館開館前の段階から積極的に展開します。
- 多くの人や機関・団体等が博物館を知り、利用できるよう、学校・市内各地でのアウトリーチ活動やイベント協力等、博物館の利用促進や効果的な活用に向けた活動周知の取組を展開します。また、他施設との共同事業等、連携先の確保に積極的に取り組めます。

4 運営方式と運営体制

新博物館での事業活動の推進にあたっては、基本計画で位置づけた事業活動の実現に向けて、活動に適した運営方式と運営体制の在り方を検討していきます。

(1) 運営方式

- 公立博物館の運営方式としては、直営方式と指定管理者方式が想定され、指定管理者方式については、管理運営業務のすべてを委託する場合と一部業務を委託する場合の2通りが考えられます。
直営方式は、市の意向を反映しやすく、継続的・安定的に事業が実施されるという利点があります。
指定管理者制度は、民間ノウハウを活かした効率的で自由な事業展開が期待できます。一方で、指定管理者が交代する可能性があること等から継続性の担保の面では直営に比べ課題があります。
- 各方式の特性等を考慮しながら、博物館の使命・役割にそって展開する博物館活動にとって適切な運営方式を検討する場合、博物館の基幹的な業務(調査研究・収集保存・活用発信等の学芸業務等)については、市直営で行いながら、一部業務を指定管理者に委託する等、民間活力を取り入れる方向も考えられます。
- 運営方式については、現在の岩国徴古館の運営状況や新博物館の今後の活動形態等も考慮しながら、今後も検討をすすめていきます。

(2) 運営体制

博物館活動の充実に向けて、十分な人材の確保と、能力向上に向けた研修体制の構築に努めていきます。

ア. 館長

- 館長は、リーダーシップを発揮し、総合的に博物館活動をマネジメントできる人材を配置します。

イ. 学芸員等の専門職員（研究・事業企画）

- 学芸員については、新博物館の所蔵資料や展示領域を鑑みて、歴史系を専門分野に、民俗・美術等各分野を横断する総合的・学際的な視野を持って、地域資料の研究調査、資料の保存・修復等の業務に対応できる職員を配置します。
- 研究取組を基に、展示や教育普及等の生涯学習の場としての事業活動を企画・推進する部門として、専門分野の知見を活かし、学校・地域での講師派遣や、地域・団体との連携事業活動のコーディネートを行います。
- 専門分野や文化財保存科学に関する最新動向の把握・研鑽を目的とした、研究会への参加に加え、他の博物館や専門機関との情報交換・交流機会の獲得等、博物館活動の質向上に向けた研修体制を充実させていきます。

ウ. 事務職員（総務・管理）

- 庶務、予算管理・経理、労務管理や博物館活動全体の企画調整、広報等を担当する部門として、事務職員を配置します。
- 企画調整、広報業務等については、事業企画の担当学芸員と連携をして業務にあたります。

※教育普及・地域連携の促進について

- ・教育普及活動（学校・団体の受け入れや、市民との連携事業等）の推進に伴い、教育普及の担当部署・担当職員の充実に努めます。
- ・博学連携においては、生徒・児童の見学受け入れだけでなく、小中高の職員と共同でのプログラム開発研究会等企画・運営を含めた学校教育との協力体制を検討し、連携強化を図っていきます。
- ・業務連携や教育支援に必要なコミュニケーション能力育成のため、担当職員を中心に研修活動への派遣活動を行い人材育成に努めます。（例：文化庁主催ミュージアム・エドゥケーター研修）

(3) 活動評価と改善のしくみづくり

より活発に活用していただける場に成長していけるよう、開館後も新博物館での事業活動に対して利用者や有識者等外部からの活動評価を受け、活動の改善を行っていく仕組みづくりを検討します。

ア. 運営協議会

- 博物館の活動・運営内容等に関して指導・助言を行う運営協議会の設置を検討します。

イ. 利用者評価

- 利用者の立場に立った適切な運営や利用者満足度の向上、館の持続的な発展につながるよう、より多くの人々が運営に参画できるしくみとして、利用者アンケートの実施を行います。
- 地域の生涯学習施設として、新博物館の使命である「研究成果の発信」や「学びや交流の場の提供」についても活動評価の指針として重視します。団体見学受け入れや出張展示、ボランティア等事業活動取り組みについて年間活動報告を行い、次年度以降の活動に活かしていきます。

第7章

開館に向けて

(1) 事業スケジュール

本事業は新博物館開館に向けて、新館整備及び岩国徴古館の改修を早期に実施することを目指し、以下のスケジュールにて進めていきます。

	基幹計画	実施内容
○検討1～2年目 ※平成31年度～ 令和2年度	岩国市 博物館等施設 再整備計画	・岩国徴古館を含めた市内の博物館資料館施設のあり方の検討 ・岩国徴古館の耐震診断（平成31年度実施）
○検討3年目 ※令和3年度	岩国市 博物館基本計画	・岩国徴古館及び新館で構成される（仮称）岩国市立博物館の整備に向けた、設計の前提となる基本的な考え方の検討 ※基本理念、基本方針、求められる機能、活動等
○検討4年目	新館基本設計	・基本設計（建築・展示） ・岩国徴古館の耐震設計
○検討5年目	新館実施設計	・実施設計 （岩国徴古館の改修設計、新館の実施設計）
○検討6年目 以降	新館施工・ 岩国徴古館改修工事	・新館の施工 （中心となる建築工事/展示工事） ・岩国徴古館の耐震補強と内部改装

(2) 概算事業費

事業費については、新館の新築工事だけではなく、岩国徴古館の耐震工事・改修工事も含めて試算を実施しました。総事業費は、新館建築の延床面積をおよそ1,800㎡程度とした場合、計画候補地にかかる立地条件や周辺環境の美装等も含めると、約22億円と想定しています。

